

公益財団法人 損保ジャパン日本興亜美術財団 2019年度事業計画

(2019年4月1日～2020年3月31日)

I 方針

1. 展覧会開催により、「愛される美術館」として芸術・文化の振興に寄与する。
 - <1> 当館の特性を活かし、国内外の美術館等から優れた美術作品を招致するとともに館蔵品等も積極的に活用、高品質な展覧会を開催する。
 - <2> 館蔵品等の貸与を通じて、国内外地域との文化交流を図る。
2. 美術鑑賞教育・鑑賞教育支援業務を通じ、地域及び社会に貢献する。
3. 優れた美術家の表彰と支援により、日本の美術界の発展に寄与する。

II 美術館関係事項

1. 美術作品の収集、保存、公開

<1> 展覧会の開催

(1) 企画展示

- ① シャルル＝フランソワ・ドービニー展 (4月20日～ 6月30日)
- ② みんなのレオ・レオーニ展 (7月13日～ 9月29日)
- ③ FACE展2020 損保ジャパン日本興亜美術賞展 (2月15日～ 3月15日)

(2) 併設展示

① 常設展示コーナー

ゴッホ《ひまわり》、ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》、セザンヌ《りんごとナブキン》を常時展示する。

② 収蔵作品展示コーナー

特別展及び企画展の会期中は、収蔵作品展示コーナーを併設し、東郷青児作品及びگرانマ・モーゼス作品等を展示する。

「FACE展2020」では、「FACE2019」グランプリ受賞作品を展示する。

(3) 長期休館

(9月30日～2月14日)

美術館及び財団事務所移転準備のため長期休館する。

ただし、新宿区立小中学校の鑑賞会は10月～11月にかけて実施する。

<2> 展覧会鑑賞支援

- (1) 展覧会図録及びジュニア版ブックレットを刊行する。
- (2) 展覧会出品リストや展示室内の解説パネルを充実させる。
- (3) ギャラリートークやワークショップ等の実施による鑑賞支援を実施する。

<3> 館蔵品・資料・文献の収集・整備

- (1) 公募コンクール「FACE2020」において、グランプリ受賞作品を収蔵する。
- (2) 東郷青児油彩1点の額を修理し、2点のキャンバスの裏板を貼り替える。
- (3) 全館蔵品のコンディションチェックを行い、移転に備えた修復を実施する。
- (4) 館蔵品及び資料等の新収蔵庫への移転準備として輸送箱・保管箱の製作や資料・書籍等の取捨選択を行うとともに、安全に移転するための計画を策定し、移転後の管理運用について検討する。

- (5) 東郷青児作品・資料のデジタルアーカイブに取り組み、2023年度から一部の公開と利用受付を開始し、2028年度の完成を目指す。
- (6) 館蔵品及び展示作品に関連した資料・文献を収集する。
- (7) 東郷青児、東郷たまみの著作権管理を管理規程に基づき適正に行う。

<4> 館蔵品の貸与(2019年2月末現在の予定)

作品名	貸与先等
ルノワール《浴女》	Clark Art Institute(クラーク美術館) Kimbell Art Museum(キンベル美術館) 6月上旬～2020年2月上旬
岸田劉生《虎ノ門風景》	東京ステーションギャラリー、 山口県立美術館、名古屋市美術館 8月中旬～2020年3月中旬
ピカソ《抱擁》	群馬県立館林美術館 9月後半～12月中旬

<5> 調査・研究

- (1) 2020年度特別展対応
具体的な展示計画を策定し、図録・書籍の執筆、広報印刷物、ニュースリリースの作成に着手する。
- (2) 図録等の刊行・頒布
展覧会図録、ジュニア版ブックレット等を刊行・頒布する。
「コレクション100選」「収蔵品目録 東郷青児」に掲載していない館蔵品に関する目録の作成に着手する。
- (3) 東郷青児作品・資料の保全とデジタルアーカイブのための調査を開始する。

2. 展覧施設の運営管理

<1> 施設の整備・その他

- (1) 美術館の移転スケジュール及び移転後の施設の運用やスタッフの配置、来館者動線や非常時の対応、サイン表示等について、事業会社、ビル管理会社等とも連携して策定、実施する。
- (2) 移転後の什器・備品等を選定するとともに不要となる什器等を処分する。
- (3) 新美術館でのICTを活用した情報発信、多言語対応等を検討する。

<2> ミュージアムショップの運営

- (1) 館名変更に備え、既存の頒布品の販売促進と在庫処分について検討、実施する。
- (2) 美術館移転後のショップ運営について検討し、館名変更後の頒布品及び2020年度特別展の頒布品について選定、製作を開始する。

3. 美術鑑賞教育の普及支援

<1> 新宿区立小中学校

新宿区との覚書に基づき、公益財団法人新宿未来創造財団やガイドスタッフ等と連携し、「対話による美術鑑賞」を引き続き実施、新宿区立小中学校の美術鑑賞教育を支援する。

<2> その他の活動

- (1) 当年度より全ての展覧会において高校生の観覧料を無料にする。
- (2) レオ・レオーニ展でトークフリーデーを設け、家族・友人同士で対話を楽しめる環境を提供する。

- (3) 新宿区以外の学校、国・地方自治体等からの美術鑑賞教育に関する視察・支援依頼に対しては、可能な範囲において協力する。また、他の美術館等との交流を深め、当館の活動に活かしていく。
- (4) 一般向け対話による鑑賞会<ギャラリー★で★トーク・アート>を継続し、来館者の多様な鑑賞方法の支援を通じ、来館者ニーズを把握する。
- (5) 新たなガイドスタッフを採用・養成するとともに、ガイドスタッフ全員を対象にした研修会・講演会の開催を継続する。

4. 美術家の支援、表彰

<1> 「FACE2020 損保ジャパン日本興亜美術賞」の全国公募

全国から応募された作品を審査会で選考し、入選・受賞作品を表彰する。

表彰式では、作家とマーケットをつなぐ役割を果たす。

入選・受賞作品は、「FACE展2020」で展示する。グランプリ受賞作品は、翌年開催する「FACE展2021」において、館蔵品として展示する。

<2> 「損保ジャパン日本興亜美術財団賞」の授与

- (1) 新進美術家の支援・育成を目的に、38の美術団体を通じ、各公募美術展平面部門の受賞者に授与する。
- (2) 賞の目的や選定基準に基づき既存の団体を見直し、2020年度以降新たに授与を委託する団体を選定する。

5. 広報・情報収集活動

<1> 広報活動

(1) 展覧会等の広報活動

- ① 事業会社と連携したテレビCMやマスコミへの積極的な働きかけ、取材対応の他、インターネットの活用等広報媒体の多様化を進める。
- ② 展覧会の特性に応じたフォトスポットの設置や作品の撮影許可等、来館者による情報発信を促していく。
- ③ 開館来累計観覧者600万人突破(見込)や長期休館、FACE展2020が42階で開催する最後の展覧会であることについても積極的に発信する。
- ④ 既存の団体や法人だけでなく、新たな連携先(新設ホテルや近隣の商業施設、観光協会等)を増やし、来館者の誘致を図る。

(2) 2020年度の広報活動

事業会社と連携し、新美術館への移転・オープン、館名変更、お披露目展示、特別展開催に関する効果的な広報展開を検討する。

また、記者発表や先行チラシの配布等による一般への周知を開始する。

(3) 美術館ホームページの改定

館名変更、美術館移転に伴い、閲覧者の来館を促すサイトになるよう全面的な改定を検討する。

<2> 情報収集活動

日本博物館協会、全国美術館会議、私立美術館会議等を通じ、情報交換、視察等を行い、他の美術館、諸団体との連絡、協調、協力を密にする。

6. 公共への協力

国、地方自治体、教育機関あるいは美術研究家等からの調査・研究への協力依頼、実習等の受入、施設及び資料提供等の要請に対し、可能な限り協力する。
学芸員資格取得のための博物館実習を、8月20日(火)～8月29日(木)の予定で実施する。

Ⅲ 一般事項

1. 機関運営及び届出に関するもの

- <1> 法令等に基づき、諸規程等を整備し適切な法人運営に努める。
- <2> 新美術館における収益目的事業の実施について検討する。

2. その他

美術館移転に先立ち、財団事務所を本社ビル低層棟へ移転する。

以上